

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0226

(注)本稿は2012年5月4日から25日まで4回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.5.26
前田 高行

アラブは男女不平等の国ばかり:2011年版世界男女格差報告

(MENA なんでもランキング・シリーズ その8)

目次	頁
1. 「世界男女格差報告2011」について	2
2. 比較対象される分野とその内容	2
3. 指数化の方法と順位付け	2
4. MENA 各国の2011年総合ランク	3
5. 分野別順位	3
6. 2007～2011年の総合ランクの推移	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の19の国と1機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第8回のランキングは世界経済フォーラム(World Economic Forum, WEF)が行った「世界男女格差報告2011(The Global Gender Gap Report 2011)」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

1. 「世界男女格差報告2011」について

「世界男女格差報告2011(The Global Gender Gap Report 2010)」(以下「2011年版報告書」)を
発表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く
非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られてい
る。

「2011年版報告書」は世界135カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世
界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差
を指数化し順位付けを行ったものである。

* WEF ホームページ: <http://www.weforum.org/videos/global-gender-gap-report-2011>

2. 比較対象される分野とその内容

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目があ
る。

1. 経済参画分野: 経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差
比較項目: (1)労働参加比率、(2)同一労働賃金格差、(3)平均所得格差、
(4)幹部職比率、(5)専門・技術職比率
2. 教育分野: 教育の機会に関する男女格差
比較項目: (1)識字率、(2)初等教育就学率、(3)中等教育就学率、(4)高等教育就学率
3. 健康・寿命分野: 健康と寿命に関する男女格差
比較項目: (1)新生児男女比率、(2)平均寿命
4. 政治参画分野: 政治参画の度合に関する男女格差
比較項目: (1)女性議員比率、(2)女性閣僚比率、
(3)過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

3. 指数化の方法と順位付け

135カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデ
ータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する(最大値は1
とする)。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低
くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。

各比較項目の指数を加重平均したものを、その分野の指数とする。最後に4つの分野の指数を加重平均したものがその国の格差指数であり、135カ国の指数を上位から順に総合順位を付けるのである。

4. MENA 各国の2011年総合ランク

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-8aGenderGap2011.pdf>参照)

「2011年版報告書」は、上記の方法により135カ国のそれぞれの総合指数を算出し順位付けを行ったものである。このうち MENA (MENA の定義は冒頭参照) は17カ国が順位付けの対象となっている。今回調査対象とならなかったのはイラク、リビア、パレスチナ自治政府の2ヶ国1機関である。

MENA 諸国の世界ランクの特徴はイスラエルを除く16カ国が全て100位以下と言う極めて低いレベルにあることである。MENA トップはイスラエルであり、同国の世界ランクは55位である。イスラエルに続くのは UAE(世界ランク103位)で MENA 第3位はクウェイト(世界ランク105位)である。第4位以下は、チュニジア(世界順位108位)、バハレーン(同110位)、カタール(同111位)、ヨルダン(117位)、レバノン(118位)と続き、これら8カ国が MENA の上位を占めている。

とは言えイスラエル以外の MENA 上位グループと下位グループの世界ランクは殆ど差が無い。レバノンに続くのがアルジェリア(世界順位121位)、トルコ(同122位)、エジプト(同123位)、シリア(同124位)、イラン(同125位)、オマーン(同127位)、モロッコ(同129位)、サウジアラビア(同131位)である。イラクなど評価対象外の国を除けば MENA 最下位はイエメン(世界順位135位)であるが、同国は世界最下位でもある。MENA の世界平均順位は116位であり、イスラエルを除く MENA 諸国は男女格差が大きく、男女平等が遅れた地域と言えよう。

ちなみに世界1位はアイスランドであり、日本は98位である。日本は、米国(17位)はもとより中国(61位)よりも低い評価となっている。

5. 分野別順位

経済、教育、健康・寿命及び政治の四分野ごとに見た MENA17カ国の順位は以下のとおりである。(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-8aGenderGap2011.pdf>参照)

(1) 経済分野の男女格差

経済分野の男女格差の MENA1位はイスラエルで、同国の世界順位は総合順位と同じ55位である。第2位以下はカタール(世界順位104位)、クウェイト(同107位)、バハレーン(同115位)と GCC 諸国が続いている。総合順位103位の UAE はこの分野では119位である。経済分野の MENA の平均世界順位は119位となっており、総合の平均順位116位より少し劣っている。MENA では経済分野における男女格差が大きいと言えよう。

(2) 教育分野の男女格差

教育分野の MENA 順位の1位から10位までは、カタール(世界57位)、UAE(同59位)、チュニジア(同70位)、イスラエル(同78位)、ヨルダン(同79位)、バハレーン(同81位)、クウェイト(同84位)、レバノン(同90位)、サウジアラビア(同92位)、アルジェリア(同96位)、オマーン(同99位)であり、これら上位11カ国が世界100位以内に入っている。世界順位100位以下の国はイラン(105位)、トルコ(106位)、シリア(109位)、エジプト(110位)、モロッコ(115位)及びイエメン(134位)であり、これらの国は女性教育への取り組みが不足しているようである。

この分野の MENA の平均世界順位は92位である。総合順位では世界100位以内がイスラエル1国であることに比べ、MENA 諸国の教育分野における男女格差は比較的小さいと言える。特に湾岸産油国は MENA 諸国の中でも女性教育が普及していることがわかる。

(3)健康・寿命分野の男女格差

MENA 諸国のこの分野における特徴は男女格差が比較的小さいことである。特に国別で見た場合チュニジアとレバノンはともに世界1位であり、指数 0.9796 は男女間で殆ど格差が無いことを示している。この分野は世界的に見ても男女の格差が少なく日本もこれら両国と同じ指数でありアンゴラなど多くの開発途上国も日本と同率1位である。この分野では二つの項目(新生児の男女比率及び男女の平均寿命)によって指数が算出されているが、この指数は政治など他の分野に比べて各国とも指数が高い。

カタール(世界127位、指数 0.9522)、UAE・クウェイト(同111位、0.9612)に対して、イエメンが83位(指数 0.9727)であることに見られるように、医療福祉制度の充実した湾岸産油国が総合評価で世界最下位のイエメンよりも男女格差が大きという意外な結果を示している。これはおそらく湾岸産油国では制度が男女の格差をはらんだまま発達しているのに対し、イエメンでは制度が未発達のため男女の格差がかえって小さいという逆説的な状況を示しているのかもしれない。

(4)政治分野の男女格差

この分野は世界各国の政治体制の違いに左右される面が大きい。またこの分野はトップのアイスランドの指標が 0.6971、米国が 0.1857 であるなど上記の健康・寿命指標に比べて世界的に指標値が低いとともに国際的な格差が大きい。MENA 各国の指標もトップのイスラエルですら 0.1412にとどまり、多くの国の指標は 0.1 以下である。因みに日本は 0.0724(世界101位)、中国は 0.1496(同57位)である。

MENA 諸国間の比較で男女格差が少ないと評価されているのは、上記のイスラエル(世界59位)のほか UAE(同62位)、トルコ(同89位)などであり、反対に格差が大きいのはサウジアラビア、カタール(ともに132位)、イエメン(131位)、イラン(130位)、オマーン(129位)などであり、いずれも世界135か国中の最低レベルである。GCC6 カ国の中では UAE が高い評価を受けているが、他の5カ国は男女格差が大きい。特にサウジアラビア及びカタールの指標は 0.0000 であり、女性の政治分野への進出がまったく閉ざされているとの厳しい評価がなされている。

6. 2007～2011年の総合ランクの推移

全世界の調査対象国数は2007年の128カ国に始まり2008年には130カ国、2009及び2010年は134カ国そして2011年には135カ国へと漸増傾向にある。この間の MENA 各国の順位の推移を追うと概略以下の通りである。(調査対象国数が増加しているため、各年の順位をそのまま比較することに若干の問題はあるが、増加数が小さいのでここでは単純比較とする。)

(1) 07～11年の MENA 順位の推移

5カ年を通じてイスラエルは常に MENA1位であった。2位は2007年から2009年まではクウェイトで、2010-11年は UAE である。UAE は2007年の5位から2009年4位、そして2010年、2011年は2位に上昇している。これら3カ国は MENA 諸国の中で男女格差が少ない国であった。但し前述のようにクウェイト及び UAE の世界順位は100位以下であり、世界水準から見ると男女格差が大きい。

カタールは7位(07年)→9位(08年)→11位(09年)と下がったあと、2010年(7位)、2011年(6位)と MENA における地位を上げている。これとは逆にオマーンは10位(07年)→8位(08年)→9位(09年)のあと2010年は10位、2011年は14位であり男女格差は悪化している。イエメン及びサウジアラビアは5年間を通じて常に MENA 最下位或いはそれに次ぐ順位に留まっている。

(2)2007～2011年の世界順位の推移

MENA の世界平均順位を見ると、2007年の108位から08年112位、09年116位と3年連続して下落し、その後2010年は115位、今回は116位と停滞している。調査対象国が年毎に増加しているため(128カ国→130カ国→134カ国→134カ国→135カ国)単純には比較できないが、Index の平均値の推移が 0.5973(07年)→0.5997(08年)→0.5999(09年)→0.6012(10年)→0.6035(11年)と毎年上がっているにもかかわらず、MENA 諸国の平均順位が上がらないのは、その改善ペースが世界の平均以下にとどまっていることを示している。

07年から11年までの5年間の国別の世界順位の変化を見ると殆どの国は停滞もしくは後退している。たとえば MENA トップのイスラエルの世界順位は07年に36位であったが08年は56位に下がり、09年は45位まで戻ったものの10年52位、11年55位と低落傾向である。またアルジェリアは07年の108位から11年の121位へと毎年順位が落ち続けている。カタールの場合、07年から09年まで109位→119位→125位と連続して後退したあと、10年は117位、今回111位と上昇傾向にある。同国の場合、モーザ王妃の活躍ぶりが外国でも大きく報道されているが、女性全体の地位向上について西欧の評価はまだかなり厳しいものがある。

その他クウェイトの過去5年間の順位は96位→101位→105位→105位→105位であるが、これは調査対象国の増加とともにランクが押し下げられた結果と言える。そしてイエメンは5年間を通じて常に世界最下位にランクされている。

ちなみに男女格差が世界で最も小さいのはスウェーデン(07年)、ノルウェー(08年)、アイスランド(09年～11年)、といずれも北欧諸国である。日本は2007年から2008年は91位(07年)→98位(08年)と下落、2009年には75位と大幅に改善したが、2010年は再び後退して94位となり、2011年は98位へと更に下がっている。なお米国と中国の順位の推移は、それぞれ31位→27位→31位→19位→17位および73位→57位→60位→61位→61位であり、いずれも日本よりも高いランクである。日本の男女格差は世界の標準よりもかなり下回っていることがわかる。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp